

資料1 分析結果（場内浸透水）

場内浸透水												
調査地点	H16-No.5*		揚水ピット		No.3揚水井戸							
採取日			H29.11.30	H30.1.31	年間平均値	H29.6.26	H29.9.20	H29.11.30	H30.1.31	年間平均値		
現場測定項目	浸透水	浸透水	浸透水	浸透水		浸透水	浸透水	浸透水	浸透水			
気温 (°C)			12.5	3.0		23.0	25.0	14.8	3.0			
水温 (°C)			19.6	14.7		21.6	21.3	24.5	24.0			
採水水深 (m) (GLより)			-	-		-	-	-	-			
分析結果					分析結果					安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH			7.6	7.8	7.7	7.4	7.7	7.4	7.5	7.5	-	-
BOD (mg/L)			5.9	20	13	14	22	8.2	8.6	13	20mg/L	-
COD (mg/L)			16	33	25	23	61	24	19	32	40mg/L	-
SS (mg/L)			14	430	220	7.9	34	4.5	< 1.0	12	-	-
EC (mS/m)			140	230	190	150	210	150	140	160	-	-
カドミウム (mg/L)			< 0.0003	< 0.0003	0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)			0.007	0.009	0.008	0.006	0.018	< 0.005	0.006	0.009	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)			0.25	0.76	0.51	0.61	0.74	0.50	0.44	0.57	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)			0.9	2.0	1.5	1.1	1.4	1.1	1.6	1.3	-	1mg/L
鉛 (mg/L)			< 0.005	0.023	0.014	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)			< 0.0005	< 0.0005	0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)			< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)			< 0.001	< 0.001	0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)			< 0.0005	< 0.0005	0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)			< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)			< 0.004	< 0.004	0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)			< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)			< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	-	-
ベンゼン (mg/L)			< 0.001	< 0.001	0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)			< 0.0002	< 0.0002	0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)			0.021	0.028	0.025	0.021	0.019	0.022	0.022	0.021	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)			2.4	6.9	4.7	1.2	3.5	0.72	0.14	1.4	-	-
マンガン (mg/L)			0.57	0.58	0.58	0.65	0.75	0.53	0.63	0.64	-	-
溶解性鉄 (mg/L)			0.01	0.02	0.02	-	-	0.05	0.04	0.05	-	-
溶解性マンガン (mg/L)			0.47	0.49	0.48	-	-	0.45	0.60	0.53	-	-
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)			0.39	17	8.7	0.51	1.2	0.047	0.069	0.46	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であること。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンジダイオキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

※ 「H16-No.5」については工事に伴い近づけませんので、平成28年度第2回目調査(H28.9.15)から当面、調査を休止しています。

資料2 分析結果（周辺地下水[Ks3層、その1]）

K s 3 層 地 下 水												
調査地点	H24-8 (2)					H26-S2 (2)						
採取日	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値		
現場測定項目	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3		Ks3	Ks3	Ks3	Ks3			
気温 (°C)	22.5	25.0	14.0	6.0		22.0	25.0	16.0	7.5			
水温 (°C)	15.5	16.5	15.2	11.6		19.2	18.9	18.0	17.9			
採水水深 (m) (GLより)	4.57	4.60	4.58	4.60		10.10	10.09	9.99	9.99			
分 析 結 果					分 析 結 果					安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	6.3	6.4	6.1	6.4	6.3	6.9	6.9	6.8	6.9	6.9	-	-
BOD (mg/L)	-	-	-	-	-	1.8	1.9	1.9	1.8	1.9	20mg/L	-
COD (mg/L)	-	-	-	-	-	13	14	14	12	13	40mg/L	-
SS (mg/L)	-	-	-	-	-	4.5	4.8	4.9	8.0	5.6	-	-
EC (mS/m)	28	16	13	16	18	140	140	140	130	140	-	-
カドミウム (mg/L)	-	-	-	-	-	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	-	-	-	-	-	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	-	-	-	-	-	0.22	0.26	0.19	0.19	0.22	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	-	-	-	-	-	1.2	1.4	1.1	1.6	1.3	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	-	-	-	-	-	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	-	-	-	-	-	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	-	-	-	-	-	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	-	-	-	-	-	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	-	-	-	-	-	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジ'クロロエチレン (mg/L)	-	-	-	-	-	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	-	-	-	-	-	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	-	-	-	-	-	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	-	-
トランス-1,2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	-	-	-	-	-	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	-	-
ベンゼン (mg/L)	-	-	-	-	-	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	-	-	-	-	-	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジ'クロロベンゼン (mg/L)	-	-	-	-	-	0.041	0.044	0.046	0.038	0.042	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	-	-	-	-	-	0.63	0.60	1.6	0.65	0.87	-	-
マンガン (mg/L)	-	-	-	-	-	1.9	2.2	3.2	2.4	2.4	-	-
溶解性鉄 (mg/L)	-	-	-	-	-	-	-	0.32	0.36	0.34	-	-
溶解性マンガン (mg/L)	-	-	-	-	-	-	-	2.2	2.1	2.2	-	-
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	-	-	-	-	-	0.028*	0.025	0.026	0.027	0.027	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンジ'グ'イネン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブレンフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

※ H26-S2(2)のダイオキシン類の分析値は、内部精度管理試験において必要な基準を満たさなかったため、参考値とする。

資料3 分析結果（周辺地下水[Ks3層、その2]）

K s 3 層 地 下 水												
調査地点	H24-2 (2)					H24-4 (2)						
採取日	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値		
現場測定項目	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3		Ks3	Ks3	Ks3	Ks3			
気温 (°C)	20.0	24.0	12.0	4.0		20.0	22.0	12.0	1.0			
水温 (°C)	16.8	16.6	16.1	15.8		15.5	16.4	17.3	16.4			
採水水深 (m) (GLより)	14.95	14.95	14.95	14.95		5.92	5.81	5.45	5.85			
分 析 結 果					分 析 結 果					安定型最終処分場の汚 透 水 の 基 準	地 下 水 環 境 基 準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	6.0	5.9	5.9	6.0	6.0	5.5	5.1	5.0	5.2	5.2	—	—
BOD (mg/L)	2.5	2.1	2.0	1.7	2.1	0.8	0.9	0.8	1.1	0.9	20mg/L	—
COD (mg/L)	5.1	4.8	5.0	4.3	4.8	0.8	0.8	0.9	1.0	0.9	40mg/L	—
SS (mg/L)	< 1.0	< 1.0	3.6	< 1.0	1.7	4.0	< 1.0	3.1	3.0	2.8	—	—
EC (mS/m)	75	64	61	57	64	5.7	4.2	3.7	5.0	4.7	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	< 0.08	< 0.08	< 0.08	0.08	< 0.08	< 0.08	< 0.08	< 0.08	0.08	—	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	0.1	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	—	—
トランス-1,2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	0.0004	0.0002	0.0004	< 0.0002	0.0003	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジ'オキソベンゼン (mg/L)	0.023	0.022	0.022	0.016	0.021	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	0.11	0.09	0.13	0.19	0.13	0.04	0.02	0.10	0.03	0.05	—	—
マンガン (mg/L)	0.54	0.52	0.71	0.55	0.58	0.01	< 0.01	0.02	0.04	0.02	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	—	—	0.12	0.12	0.12	—	—	< 0.01	0.03	0.02	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	—	—	0.52	0.50	0.51	—	—	< 0.01	0.03	0.02	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.025	0.026	0.025	0.025	0.025	0.048	0.025	0.036	0.043	0.038	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であるこという。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロベンゾ'グアイネン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料4 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その1]）

K s 2 層 地 下 水												
調査地点	H24-7					H24-6(2)						
採取日	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値		
現場測定項目	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1		Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温 (°C)	22.0	25.0	13.0	3.0		22.4	25.0	13.0	8.0			
水温 (°C)	18.1	16.6	18.1	18.1		18.2	18.9	19.6	18.2			
採水水深 (m) (GLより)	9.75	9.53	9.20	9.46		9.40	9.19	8.84	9.08			
分 析 結 果					分 析 結 果					安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	6.3	6.2	6.0	6.2	6.2	5.3	5.6	5.3	5.4	5.4	—	—
BOD (mg/L)	1.4	1.3	0.9	1.1	1.2	0.8	0.8	0.8	1.0	0.9	20mg/L	—
COD (mg/L)	3.3	3.4	3.6	3.6	3.5	0.8	0.7	0.8	0.7	0.8	40mg/L	—
SS (mg/L)	1.2	< 1.0	1.5	< 1.0	1.2	3.4	9.7	1.2	7.5	5.5	—	—
EC (mS/m)	12	10	8.3	10	10	11	12	10	11	11	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	0.012	0.012	0.009	0.012	0.011	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	< 0.08	< 0.08	< 0.08	0.08	< 0.08	< 0.08	< 0.08	< 0.08	0.08	—	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	0.1	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	—	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	4.3	4.6	3.9	5.0	4.5	0.05	0.02	0.05	0.06	0.05	—	—
マンガン (mg/L)	0.41	0.48	0.40	0.50	0.45	0.04	0.04	0.02	0.04	0.04	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	—	—	3.2	4.5	3.9	—	—	< 0.01	0.01	0.01	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	—	—	0.38	0.48	0.43	—	—	0.02	0.04	0.03	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.026	0.024	0.025	0.024	0.025	0.031	0.033	0.027	0.035	0.032	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であるこという。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾ[ghi]ペリチン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料5 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その2]）

K s 2 層 地 下 水												
調査地点	H26-S2					No. 1						
採取日	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2		Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温 (°C)	22. 5	24. 0	16. 5	3. 0		27. 0	24. 2	16. 0	7. 0			
水温 (°C)	19. 7	19. 0	17. 5	16. 9		20. 9	20. 7	19. 9	20. 1			
採水水深 (m) (GLより)	18. 75	18. 75	18. 75	18. 75		10. 50	10. 50	10. 50	10. 50			
	分 析 結 果					分 析 結 果					安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析		
pH	6. 9	6. 8	7. 0	6. 9	6. 9	6. 9	6. 3	6. 5	6. 5	6. 6	—	—
BOD (mg/L)	1. 8	1. 3	0. 9	1. 1	1. 3	1. 2	1. 2	1. 1	1. 8	1. 3	20mg/L	—
COD (mg/L)	2. 8	2. 6	2. 7	2. 0	2. 5	11	12	13	14	13	40mg/L	—
SS (mg/L)	1. 8	2. 0	2. 2	1. 7	1. 9	44	89	36	46	54	—	—
EC (mS/m)	27	24	26	24	25	93	90	95	84	91	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003	0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003	0. 0003	0. 003mg/L	0. 003mg/L
ひ素 (mg/L)	0. 029	0. 030	0. 039	0. 031	0. 032	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0. 18	0. 22	0. 15	0. 14	0. 17	0. 10	0. 13	< 0. 08	< 0. 08	0. 10	—	0. 8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0. 1	< 0. 1	< 0. 1	< 0. 1	0. 1	0. 8	1. 1	0. 8	1. 0	0. 9	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	0. 0005	0. 0005mg/L	0. 0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	検出されないこと (<0. 0005mg/L)	検出されないこと (<0. 0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	0. 001	0. 03mg/L	0. 01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	0. 0005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
1, 1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	0. 1mg/L	0. 1mg/L
1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004	0. 004	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004	0. 004	0. 04mg/L	0. 04mg/L
シス-1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	—	—
トランス-1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	0. 001	0. 01mg/L	0. 01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002	0. 0002	0. 0005	0. 0002	0. 0005	0. 0003	0. 0004	0. 002mg/L	0. 002mg/L
1, 4-ジオキサン (mg/L)	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	0. 025	0. 024	0. 024	0. 021	0. 024	0. 05mg/L	0. 05mg/L
鉄 (mg/L)	1. 4	1. 6	3. 3	2. 0	2. 1	35	33	88	32	47	—	—
マンガン (mg/L)	0. 49	0. 56	0. 60	0. 57	0. 56	1. 9	2. 2	1. 9	2. 1	2. 0	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	—	—	0. 63	1. 9	1. 3	—	—	30	31	31	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	—	—	0. 59	0. 52	0. 56	—	—	1. 9	1. 8	1. 9	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0. 026	0. 024	0. 030	0. 047	0. 032	0. 13	0. 18	0. 051	0. 14	0. 13	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であるこという。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2, 3, 7, 8-TCDD(テトラクロロジベンゾ[ghi]ペリチン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料6 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その3]）

K s 2 層 地 下 水												
調査地点	No. 3-1					H24-2						
採取日	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2		Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温 (°C)	24. 0	24. 5	13. 0	5. 0		20. 0	23. 0	12. 0	6. 0			
水温 (°C)	20. 5	20. 2	19. 5	18. 5		17. 8	18. 0	17. 0	17. 0			
採水水深 (m) (GLより)	13. 32	13. 12	12. 78	13. 06		25. 30	25. 30	25. 30	25. 30			
分 析 結 果					分 析 結 果					安定型最終処分場の汚 透 水 の 基 準	地 下 水 環 境 基 準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	7. 0	7. 1	7. 2	7. 2	7. 1	6. 5	6. 4	6. 4	6. 4	6. 4	—	—
BOD (mg/L)	3. 1	3. 3	3. 4	2. 9	3. 2	1. 0	1. 3	1. 0	0. 9	1. 1	20mg/L	—
COD (mg/L)	14	20	25	21	20	4. 3	4. 7	4. 6	4. 4	4. 5	40mg/L	—
SS (mg/L)	22	17	19	20	20	< 1. 0	12	< 1. 0	< 1. 0	3. 8	—	—
EC (mS/m)	160	180	220	220	200	70	72	69	70	70	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003	0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003	0. 0003	0. 003mg/L	0. 003mg/L
ひ素 (mg/L)	0. 024	0. 020	0. 019	0. 020	0. 021	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0. 41	0. 49	0. 44	0. 42	0. 44	0. 08	< 0. 08	< 0. 08	< 0. 08	0. 08	—	0. 8mg/L
ほう素 (mg/L)	1. 1	1. 3	1. 1	1. 6	1. 3	0. 7	0. 8	0. 6	0. 8	0. 7	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	0. 0005	0. 0005mg/L	0. 0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	検出されないこと (<0. 0005mg/L)	検出されないこと (<0. 0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	0. 001	0. 03mg/L	0. 01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	0. 0005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
1, 1-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	0. 1mg/L	0. 1mg/L
1, 2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004	0. 004	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004	0. 004	0. 04mg/L	0. 04mg/L
シス-1, 2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	—	—
トランス-1, 2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	0. 001	0. 01mg/L	0. 01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002	0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002	0. 0002	0. 002mg/L	0. 002mg/L
1, 4-ジ'オキソベンゼン (mg/L)	0. 036	0. 029	0. 038	0. 043	0. 037	0. 012	0. 012	0. 010	0. 011	0. 011	0. 05mg/L	0. 05mg/L
鉄 (mg/L)	7. 7	6. 9	10	8. 4	8. 3	0. 65	0. 91	0. 61	0. 75	0. 73	—	—
マンガン (mg/L)	1. 1	1. 2	1. 7	1. 3	1. 3	0. 16	0. 21	0. 17	0. 15	0. 17	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	—	—	2. 3	5. 0	3. 7	—	—	0. 57	0. 56	0. 57	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	—	—	1. 3	1. 2	1. 3	—	—	0. 17	0. 14	0. 16	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0. 026	0. 026	0. 026	0. 026	0. 026	0. 024	0. 025	0. 024	0. 024	0. 024	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であるこという。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2, 3, 7, 8-TCDD(テトラクロロジ'ベンジ'グアイチン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブレンフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料7 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その4]、[Ks2+Ks3層最下流地下水]

調査地点	K s 2層地下水					K s 2 + K s 3層最下流地下水					安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準
	H24-4					No. K-1						
採取日	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2		Ks2+Ks3	Ks2+Ks3	Ks2+Ks3	Ks2+Ks3			
気温 (°C)	20.1	23.0	12.0	2.0		28.0	25.0	12.0	6.0			
水温 (°C)	19.6	20.0	19.3	19.0		16.3	16.1	14.7	14.6			
採水水深 (m) (GLより)	19.50	19.50	19.50	19.50		-	-	-	-			
分析結果					分析結果							
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析		
pH	7.0	7.1	7.1	7.1	7.1	5.5	5.5	5.5	5.6	5.5	-	-
BOD (mg/L)	2.1	1.3	0.9	1.2	1.4	1.0	1.1	1.2	1.1	1.1	20mg/L	-
COD (mg/L)	5.8	6.1	6.0	5.8	5.9	7.7	8.0	8.4	7.6	7.9	40mg/L	-
SS (mg/L)	1.3	2.8	1.2	5.0	2.6	1.3	2.4	< 1.0	1.2	1.5	-	-
EC (mS/m)	120	100	100	100	110	73	74	73	74	74	-	-
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0.12	0.16	0.09	0.08	0.11	< 0.08	< 0.08	< 0.08	< 0.08	0.08	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	0.9	1.1	0.8	1.0	1.0	0.5	0.7	0.4	0.7	0.6	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	-	-
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.0002	0.0007	0.0005	0.0007	0.0006	0.0006	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	0.029	0.031	0.031	0.027	0.030	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	0.71	0.56	0.56	0.59	0.61	12	9.5	14	15	13	-	-
マンガン (mg/L)	3.5	4.2	3.6	4.0	3.8	0.58	0.66	0.72	0.65	0.65	-	-
溶解性鉄 (mg/L)	-	-	0.30	0.40	0.35	-	-	13	12	13	-	-
溶解性マンガン (mg/L)	-	-	3.5	3.9	3.7	-	-	0.62	0.57	0.60	-	-
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.024*	0.025	0.024	0.026	0.025	0.024	0.025	0.024	0.024	0.024	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾ[ghi]ペリレン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

※ H24-4のダイオキシン類の分析値は、内部精度管理試験において必要な基準を満たさなかったため、参考値とする。

資料8 分析結果（地下水確認調査【Ks2層、その1】）

地下水確認調査												
調査地点	No. 4-1					No. 1-1						
採取日	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値		
現場測定項目	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1		Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1			
気温（℃）	24. 0	24. 2	14. 2	9. 0		22. 2	25. 0	13. 0	5. 0			
水温（℃）	17. 1	16. 7	16. 0	15. 7		16. 0	18. 7	16. 3	16. 1			
採水水深（m）（GLより）	18. 82	18. 61	18. 21	18. 51		14. 13	13. 90	13. 61	13. 88			
分析結果					分析結果					安定型最終処分場の汚染水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	5. 6	5. 6	5. 6	5. 6	5. 6	6. 2	6. 0	6. 1	6. 0	6. 1	—	—
BOD（mg/L）	0. 9	0. 8	0. 8	1. 0	0. 9	1. 2	0. 6	0. 8	0. 8	0. 9	20mg/L	—
COD（mg/L）	0. 6	< 0. 5	< 0. 5	0. 7	0. 6	1. 7	2. 9	3. 2	2. 1	2. 5	40mg/L	—
SS（mg/L）	1. 5	12	3. 7	6. 3	5. 9	< 1. 0	2. 3	2. 9	1. 9	2. 0	—	—
EC（mS/m）	13	14	12	12	13	62	76	96	40	69	—	—
カドミウム（mg/L）	< 0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003	0. 0003	< 0. 0003	0. 0004	< 0. 0003	< 0. 0003	0. 0003	0. 003mg/L	0. 003mg/L
ひ素（mg/L）	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
ふっ素（mg/L）	< 0. 08	< 0. 08	< 0. 08	< 0. 08	0. 08	< 0. 08	< 0. 08	< 0. 08	< 0. 08	0. 08	—	0. 8mg/L
ほう素（mg/L）	< 0. 1	< 0. 1	< 0. 1	< 0. 1	0. 1	0. 1	0. 2	0. 2	< 0. 1	0. 2	—	1mg/L
鉛（mg/L）	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
総水銀（mg/L）	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	0. 0005	0. 0005mg/L	0. 0005mg/L
PCB（mg/L）	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	検出されないこと (<0. 0005mg/L)	検出されないこと (<0. 0005mg/L)
トリクロロエチレン（mg/L）	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	0. 001	0. 03mg/L	0. 01mg/L
テトラクロロエチレン（mg/L）	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	0. 0005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
1, 1-ジクロロエチレン（mg/L）	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	0. 1mg/L	0. 1mg/L
1, 2-ジクロロエチレン（mg/L）	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004	0. 004	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004	0. 004	0. 04mg/L	0. 04mg/L
シス-1, 2-ジクロロエチレン（mg/L）	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	—	—
トランス-1, 2-ジクロロエチレン（mg/L）	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	—	—
ベンゼン（mg/L）	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	0. 001	0. 01mg/L	0. 01mg/L
クロロエチレン（mg/L）	< 0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002	0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002	0. 0002	0. 002mg/L	0. 002mg/L
1, 4-ジメチルベンゼン（mg/L）	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	0. 05mg/L	0. 05mg/L
鉄（mg/L）	0. 05	0. 17	0. 05	0. 11	0. 10	0. 02	< 0. 01	0. 06	0. 03	0. 03	—	—
マンガン（mg/L）	< 0. 01	< 0. 01	< 0. 01	0. 02	0. 01	< 0. 01	< 0. 01	0. 02	< 0. 01	0. 01	—	—
溶解性鉄（mg/L）	—	—	0. 01	0. 09	0. 05	—	—	< 0. 01	< 0. 01	0. 01	—	—
溶解性マンガン（mg/L）	—	—	< 0. 01	< 0. 01	0. 01	—	—	0. 01	< 0. 01	0. 01	—	—
ダイオキシン類（pg-TEQ/L）	0. 024	0. 027	0. 025	0. 025	0. 025	0. 024	0. 024	0. 024	0. 024	0. 024	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1（1pg=1,000,000,000分の1mg）

※ TEQ : 毒性等量であるこという。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2, 3, 7, 8-TCDD（テトラクロロベンゾ「d」イネン）に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質（水温、pH、電気伝導度等）が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0. 45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料9 分析結果（地下水確認調査[Ks2層、その2]）

地下水確認調査												
調査地点	No. 4-2					市No. 3						
採取日	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値	H29. 6. 26	H29. 9. 20	H29. 11. 30	H30. 1. 31	年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2		Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温（℃）	22. 5	25. 0	14. 0	6. 0		23. 0	24. 0	14. 0	9. 0			
水温（℃）	15. 7	15. 8	15. 1	14. 7		16. 0	16. 0	14. 9	13. 4			
採水水深（m）（GLより）	14. 13	13. 98	13. 83	13. 97		-	-	-	-			
分析結果					分析結果					安定型最終処分場の汚染水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	5. 9	5. 9	6. 0	6. 1	6. 0	6. 5	6. 4	6. 4	6. 5	6. 5	-	-
BOD（mg/L）	0. 7	< 0. 5	0. 8	0. 7	0. 7	-	-	-	-	-	20mg/L	-
COD（mg/L）	0. 8	0. 7	0. 9	0. 9	0. 8	-	-	-	-	-	40mg/L	-
SS（mg/L）	1. 4	< 1. 0	1. 6	1. 2	1. 3	1. 1	< 1. 0	< 1. 0	< 1. 0	1. 0	-	-
EC（mS/m）	12	12	11	11	12	86	89	94	92	90	-	-
カドミウム（mg/L）	< 0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003	0. 0003	-	-	-	-	-	0. 003mg/L	0. 003mg/L
ひ素（mg/L）	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	-	-	-	-	-	0. 01mg/L	0. 01mg/L
ふっ素（mg/L）	< 0. 08	< 0. 08	< 0. 08	< 0. 08	0. 08	-	-	-	-	-	-	0. 8mg/L
ほう素（mg/L）	< 0. 1	< 0. 1	< 0. 1	< 0. 1	0. 1	-	-	-	-	-	-	1mg/L
鉛（mg/L）	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	-	-	-	-	-	0. 01mg/L	0. 01mg/L
総水銀（mg/L）	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	0. 0005	0. 0005mg/L	0. 0005mg/L
PCB（mg/L）	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	-	-	-	-	-	検出されないこと (<0. 0005mg/L)	検出されないこと (<0. 0005mg/L)
トリクロロエチレン（mg/L）	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	0. 001	-	-	-	-	-	0. 03mg/L	0. 01mg/L
テトラクロロエチレン（mg/L）	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	0. 0005	-	-	-	-	-	0. 01mg/L	0. 01mg/L
1, 1-ジクロロエチレン（mg/L）	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	-	-	-	-	-	0. 1mg/L	0. 1mg/L
1, 2-ジクロロエチレン（mg/L）	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004	0. 004	-	-	-	-	-	0. 04mg/L	0. 04mg/L
シス-1, 2-ジクロロエチレン（mg/L）	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	-	-	-	-	-	-	-
トランス-1, 2-ジクロロエチレン（mg/L）	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	0. 002	-	-	-	-	-	-	-
ベンゼン（mg/L）	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	0. 001	-	-	-	-	-	0. 01mg/L	0. 01mg/L
クロロエチレン（mg/L）	< 0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002	0. 0002	-	-	-	-	-	0. 002mg/L	0. 002mg/L
1, 4-ジメチルベンゼン（mg/L）	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	0. 005	-	-	-	-	-	0. 05mg/L	0. 05mg/L
鉄（mg/L）	0. 18	0. 12	0. 23	0. 27	0. 20	-	-	-	-	-	-	-
マンガン（mg/L）	0. 02	0. 02	0. 03	0. 04	0. 03	-	-	-	-	-	-	-
溶解性鉄（mg/L）	-	-	0. 13	0. 24	0. 19	-	-	-	-	-	-	-
溶解性マンガン（mg/L）	-	-	0. 03	0. 03	0. 03	-	-	-	-	-	-	-
ダイオキシン類（pg-TEQ/L）	0. 024	0. 024	0. 026	0. 026	0. 025	-	-	-	-	-	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg：mgの十億分の1（1pg=1,000,000,000分の1mg）

※ TEQ：毒性等量であるこという。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2, 3, 7, 8-TCDD（テトラクロロジベンジドイネン）に換算した数値。

※ 採水方法：井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質（水温、pH、電気伝導度等）が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法：試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱れることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値：環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料10 分析結果（経堂池[中央部中層]）

経堂池水質調査							
調査地点	中央部	流出部	中央部				
採取日	H29.7.4	H29.9.27	H29.12.5	H30.2.8	年間平均値		
現場測定項目	中層	中層	中層	中層			
気温 (°C)	28.0	25.0	8.0	5.0			
水温 (°C)	26.5	21.1	8.2	4.3			
採水水深 (m) (水面より)	中層：1.0 m	中層：0.7 m	中層：0.7 m	中層：0.87 m			
分析結果							
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	農業用水基準	水質環境基準
pH	7.6	6.9	7.3	7.6	7.4	6.0~7.5	—
BOD (mg/L)	6.2	1.7	2.8	2.1	3.2	—	—
COD (mg/L)	13	6.7	5.3	3.3	7.1	6mg/L	—
SS (mg/L)	36	4.4	7.1	6.2	13	100mg/L	—
EC (mS/m)	32	37	45	38	38	30mS/m	—
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0.09	0.12	0.08	< 0.08	0.09	—	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0.1	0.1	< 0.1	< 0.1	0.1	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	—	0.01mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.004	—	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	—	0.04mg/L
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	—	—
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.0002	—	0.002mg/L
1,4-ジメチル (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	—	0.05mg/L
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.75	0.040	0.16	0.11	0.27	—	1pg-TEQ/L
全窒素 (mg/L)	0.84	0.41	0.38	0.44	0.52	1mg/L	—
アンモニア性窒素 (mg/L)	< 0.05	< 0.05	0.06	< 0.05	0.05	—	—
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素 (mg/L)	0.02	0.02	< 0.01	< 0.01	0.02	—	10mg/L
全りん (mg/L)	0.07	< 0.05	< 0.05	< 0.05	0.06	—	—
りん酸態りん (mg/L)	< 0.05	< 0.05	< 0.05	< 0.05	0.05	—	—
銅 (mg/L)	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	0.01	0.02mg/L	—
亜鉛 (mg/L)	< 0.05	< 0.05	< 0.05	< 0.05	0.05	0.5mg/L	—
蒸発残留物 (mg/L)	260	260	280	190	250	—	—
塩化物イオン (mg/L)	12	8.6	7.0	11	9.7	—	—

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾ[1,2,3-d]ダイキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : バンドーン式採水器を用い、経堂池中央部において、水深(約2m)の中層1.0mの水を汲み上げた。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。

* 農業用水基準 : 農林水産省が学識経験者の意見も取り入れて、昭和45年3月に定めた基準で、法的拘束力はないが、水稻の正常な生育のために望ましいかんがい用水の指標として利用されている。